

委員A

- ・全国的な人口減少が止められない中、敦賀市の取り組みは全国に比較し突出したものがなく、他から呼び込むにはより誘因性の強い施策が欲しい
- ・低所得者ほど出生率が低い現状があるので、若者が「稼げる」まちづくりへの取り組み
- ・商店街の空き店舗を安く貸し出し、商売のチャレンジの場とすることで活気のある人を外から呼び込む
- ・市内の空き家の子沢山の子育て世帯に安く貸し出し、のびのびとした子育て環境を提供する
- ・3世代同居世代にも同様の施策を行い、多世代での子育てがやりやすい仕組みづくり
- ・今回のコロナ禍を経て、変化する人との関わり方や生活スタイル・観光に対応した最新の基本構想へ
- ・子どもたちと敦賀市の良いところだけでなく、問題点も共有し一緒に考える。子どもたちの考えを受け入れる

委員B

- ・北陸新幹線の開業を期間中に迎え、また、原子力発電所の稼働停止が続く中で、新しい基本構想を伴う総合計画が確定されるに際し、将来、都市像を「みなとまち」から「住みよさ」に設定した点は、住民ニーズも踏まえた慧眼であるとともに、施策との整合性が問われる懸念もあるように思われる。将来像自体に反対ではないが、メッセージを正しく伝える配慮があわせて必要ではないか

委員C

【健康福祉分野】

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の実行（休校、休園ほか）での気づきの対策追加する
- ・施設の少ない環境下、高齢者の介護負荷増加の共稼ぎ世帯への影響をシミュレーションし、対策の具体化

【教育文化分野】

- ・どの世代をターゲットにするのか？敦賀で生まれ育った人だけでよいのか。ダイバーシティ醸成の具体化推進（市外からの発想、価値観の導入が必要）すべき

【産業観光分野】

- ・新幹線開通をどのように活かすか具体策が必要（①特に市外、県外のニーズを把握する②ターゲットとする利用者の属性は？例えば a.沿線：海なし県（長野、群馬、栃木）からの来訪ニーズは何か？敦賀市だけでなく、近隣市町村と連携したパッケージ型で観光プランを作成
- ・駅周辺だけでなく、メイン通りの整備、美化、観光地へのアクセスインフラ整備
- ・その他、第一次産業関連での移住者呼び込みの具体化
- ・企業誘致が一定程度の成果を収めていますが、直近では労働者不足が成長・拡大の足を引っ張っています。県外から呼び込む策を具体化しないと更なる誘致は厳しいです。地道なものづくり企業だけでなく、IT分野とか投資規模の小さい情報産業も対象として起業家支援含めて誘致対象を拡げられないでしょうか。

【敦賀市のイメージチェンジ】

- ・気候、地理・地形、食べ物などの観光資産、北陸新幹線開業などのインフラなどの特徴に+αの組み合わせで何かできないでしょうか。イノベーションは知と知の組み合わせで創出されます。日本全国の市町村でやっていること（パクリ可）の中に敦賀の強みと組み合わせで違う魅力、イノベーションを創出できないか
- ・ふるさと納税者について、2019年は、敦賀は前年比で増加したようですが、納税者情報の属性解析、マイニングなどは実施しているのでしょうか。ex.リピーターなのか、特定の地域に偏っているのか、何を求めているのか、敦賀のなにを知っている、何を期待しているのか・・・方策を考えるヒントになる情報が得られるか？

その他

- ・生まれてから社会人になるまで敦賀の外で生活したことがない人が多い点について、ダイバーシティが社会を発展させる重要な因子の一つである点から危惧します。県外に出て行かないなら県外から呼び込むしかない

委員D

【産業観光分野】

- ・特に向こう3年間については、北陸新幹線敦賀延伸を見据えた観光事業に最も傾注すべき
- ・観光ファンド・日本版DMO等を活用し、「官公庁」「地元事業者」「金融機関」「専門機関」など、一体となった開発を進めていく必要
- ・また、北陸新幹線終着駅となる敦賀市は、嶺南（若狭）地区の玄関口となることも踏まえれば、嶺南地域全体の観光産業事業者との連携を行っていくことが望ましい

委員E

- ・大学の増設

委員F

- ・基本的には修正などは必要ないと思われる
- ・『楽しく子育てができる環境を整備』の事業例で「子どもの進学時（時期としては、小学校・中学校・高校入学時）のお祝い金助成」及び「国の児童手当とは別で、年に1度の敦賀市独自の児童手当支給」を実施してはどうか
- ・『地域の特性を活かした「学び」の機会充実による敦賀を支える人づくり』の事業例で「観光つるが検定受験の推進」をしてはどうか
- ・『北陸新幹線敦賀開業に向けた受け皿づくりの総仕上げ』の事業例で「榊青山財産ネットワークス駅ビル出展テナントへの助成」をしてはどうか
- ・『原子力安全対策とともに、万が一の防災体制を整え、安全安心なまちづくり』の事業例で今回の新型コロナウイルスのような日本全国に影響を及ぼすような感染症発生事例を経て、何らかの対応方針を追加してはどうか
- ・人口減少対策の政策に重きを置いており、どの分野に該当するが判断しにくい「Uターン者への助成」及び「新たに住所ができる住宅新築・購入者への助成」をしてはどうか
- ・プライベートでの地区との交流、市内人口確保や市内雇用先確保、敦賀市への税金納付などの兼ね合いからも、敦賀市職員は敦賀市内に住所を置いておいた方が良いのではないかと（結婚などにより途中から市外に転居しないといけないケースがあることも承知しています）

委員G

- ・正規社員雇用拡大に向けた環境づくり（共働き上位県ならではの体制づくり）
- ・次世代につながる人口増加には育児環境充実が不可欠であるため
 - ・保育園等の充実・しくみの拡大化（時間帯・期間・保育料の設定および仕方など）
 - ・義務教育終了時までにかかる育児体制の強化（現金支給≒体制づくり）

委員H

- ・特に意見はありませんが、現状のコロナウイルス感染症の影響を考慮して、これまでのまちづくりとは違う視点からのまちづくりについて考えていく事も必要になるのではないかと考える

委員I

- ・「次世代につなげる…」の基本理念はとても共感できよいと思う
- ・現代は誰もがたくさんの選択肢を自由に選べる時代になり、それはすばらしい事です、一方つなげるといった点から見ると、バトンを渡す方はバトンを渡したいと思うだけで口にせず、バトンを受け取る側の意見が尊重される傾向があります。バトンを受け取る側が自らの意思で受け取りたい（つなげたい）と思ってもらえる事を市全体で取り組むことができたらとてもうれしく思う
- ・信頼は、お互いに「知っていること」「密接に関わっていること」「色んなことがつながっていること」が大切
 - ①「50年原子力とともに生きている町」として、原発立地住民が、原子力の安全性、安全な取り組みを原電さんから知ることだけでなく、原子力発電所の歴史から、今後、稼働するにしても廃炉とするにしても、賛成か否かではなく、原電と地域の課題をもっと共有する必要がある。（現状、原子力発電所のことを地域住民（私も含め）知らない事が多い）
 - ②お店や場所が継続されていくことは、未来に語り継がれていく要素として必要
新しいカッコイイお店は、次から次へと出てくると思いますが、50年、100年、150年を何世代もお客さんが来てくれる店がたくさん残るといいと思う。また、新しいお店もいつの日か、長く続くお店になっていける街だとよいと思う

委員 J

【健康福祉分野】

- ・「楽しく子育て」について、子育ては本来楽しいものかもしれないが、「楽しい」だけではなく苦勞も多いと思う。そこで戦略を具体的に落とし込みできるように、例えば「支援する取り組み・応援するプラン」など、「子育てしやすい街」を打ち出したほうが良いのでは
- ・健康づくりや障がい者福祉などの福祉関連や地域医療については、アンケート結果からも多くの人が望んでいるためそこに注力することは非常に良い

【教育分野分野】

- ・特色ある教育環境は魅力的だが、時代につなぐ住みたくなるまちを基本理念とするのであれば、「全国に誇る」（全国目線）よりも地元愛に重点を置き、ふるさと学習の推進や地域の歴史や文化を深く学び、ここ敦賀でしかできない教育環境を整備することの方が大事だと思った。また、地域の特性が「人道の港」だけではなく例に挙げるのであれば、史跡や神社仏閣、歴史上の人物も掲げる必要があるのではと感じた。学びの機会を充実させるためには、学校や家庭だけでなく、地域や地元企業の協力も必要で、それが行く行くは地元就職（若者離れに歯止め、若者の定着）にも繋がると考える

【産業観光分野・都市基盤分野】

- ・この2つの分野は漠然としていて具体的なイメージが浮かばなかった
- ・北陸新幹線開業を契機に駅前をどう産業観光に繋げるのか、都市基盤に繋げるのかにもよるが、駅前～港までの導線を今後どう考えるか（駅周辺に都市型公園などを作って憩いの空間を作るなどの『市民を主体にした構想』若しくは商店街活性化などで『市外に向けた産業基盤』なのか）既に方向性は決まっていると思うため、この分野については他の人の意見を聞きたい
- ・観光にしても都市基盤にしても一過性のものではなく、継続的な取り組みが必要だと思う。そのためには、通年を通して人を呼べる施策や市内のコミュニティをはじめ、市外、県外との交流は不可欠

【安心安全分野】

- ・安心安全なまちづくりは災害時や原子力防災は勿論大事だが、若者や高齢者に対して交通手段を確保し（免許返納しやすい環境の確保など）暮らしやすくすることもこの安心安全に繋がるのではと思った。また、若者の雇用や高齢者のつながりの場の提供、高齢者同士をつなぐ支援などに取り組むことなども、安心なまちづくりに繋がると思う。更に犯罪の起こりにくい地域社会の形成や新型コロナウイルスなどの感染症対策、社会的、経済的、教育的に予期せぬ事案が発生した時に安心して暮らせるような対策の構築などもこの安全安心に繋がると思う

【全般】

- ・全体的には第7次の構成はわかりやすいと思った。その分、基本構想の戦略は方向性をしっかりと決めておかないと具体的な事業に繋がらないと思う。専門家をはじめ、今、市民が求めていることやものは何かを拾い上げて名前だけといわれたいようなわかりやすく現状に即した事業の実現に向けて、今後、検討していきたい

委員K

- ・長年にわたって原発の恩恵を受けてきた敦賀市は、世の中の景気にそれほど左右されず、経済は比較的安定していたと思う。反面、原発への依存度が高かったため、自ら何とかしようとする気概や創造性・真の活力が培われてこなかったと思います。原発が停止して以来それが顕著になった
 - ・第7次総合計画の基本理念と5つの戦略はどれも重要かつ必要なことだと思います。特に産業観光分野と都市基盤分野はより積極的・具体的に・明瞭性をもって進めるべきだと思う
 - ・多くの港町が衰退する中、今こそ敦賀市が有する歴史的・地理的・文化的に恵まれた資源と3年後の北陸新幹線開業のアドバンテージを最大限に活かすべきです。そのためには本当の意味で官民一体となった人の力（老若男女問わず）言い換えれば大きなエネルギーとしてのマンパワーが必要だと思う
 - ・専門家や外部の意見に加えて、より多くの民間・市民を積極的に巻き込み、活気あふれるまちづくりを目指すべき
 - ・観光客が一泊したくなるような敦賀ならではのブランド力を磨き上げる
- (1) 他にない「鉄道と港のまち」を目指す
- ・建設予定の駅西施設、8号線2車線化、気比神宮、赤レンガ倉庫、緑地公園・新ムゼウムの繋がりを最大限に活かす
 - ・SL構想を何とか頓挫させないでほしい。緑地公園に道の駅を。船溜まり地区との効果的な繋がりを。更なる食の充実を
- (2) 戦国歴史と自然をより効果的にPRする
- ・戦国4大武将（信長、秀吉、家康に加えて明智光秀）が集結した金ヶ崎をよりインパクトをもたせてほしい
 - ・戦国武将として人気の「大谷吉継」と「西福寺」「常宮神社・朝鮮鐘」
 - ・奥の細道北陸路最後の「松尾芭蕉」と「色が浜」、日本海の小さなハワイとも言われる「水島」
 - ・ラムサール条約登録「中池見湿地」、日本3大松原の名勝「気比の松原」他
 - ・若い人や女性が安心して働けるよう貢献してくれる魅力ある企業誘致を
 - ・その他近隣地域との連携（北前船の河野村、レインボーライン・水月湖年縞の三方等）他

委員L

- ・どの様なまちづくりを目指すべきか、どの様な方向性で政策を進めるべきか…は分かりませんが、「敦賀」というまちにもうひとつ魅力が足りない様に感じる
- ・どんな魅力が足りないとか、必要なかはわかりませんが、自慢になる様なところがない気がする
将来を担う若者が、県外に1度出たり、県外から来ても、ずっと敦賀で住みたいと思ってもらわないとまちの活性化などは難しいのかなと思う
- ・市民向けというのであれば、もっとわかりやすい感じの資料とかの方が取り組みやすいと思う

意見M

【基本理念】

- ・基本理念について、記載の案が妥当であるとする

【健康福祉分野、教育文化分野】

- ・子育てや児童から少年にかけての支援を軸にする方向性が望ましい。また、高等教育機関の拡充は財政的に困難と考えられるので、初等・中等教育に重点をおく方針がよい

【産業観光分野】

- ・産業構造の変化を経ても必要とされるエネルギー産業に特化することが過去の市の遺産を活かしつつ、市の確実な発展を促せると考える。
人口減少を重視するなら観光よりも産業の発達が望ましい

【都市基盤分野】

- ・北陸新幹線開業により交通手段が連続性を失うことで敦賀の地理的価値は一時的に上昇するだろう。この先、北陸新幹線が全通するまでの間に、如何に市の発展を行うかが鍵になると考える

【安全安心分野】

- ・原子力に関する事項が住民の懸念となる例が確認されているので、住民に科学的「事実」に基づいた理解を得る必要が有る。特に事実を理解する思考法の教育にも重点を置くことが望ましい

委員N

【教育分野】

- ・敦賀の未来を担うには、もっと敦賀を知り、「良くしたい」と思う子どもを増やすことが大事。地元について学ぶだけではなくて、それを活かして敦賀を良くしていく案を授業で考え、実践していく機会が必要。(総合の時間を活用)
- (駅前商店街の活性化、名産品の開発など、実際に活動できるものはたくさんあると思う。柔軟な発想を活用しない手はない)
- ・また、高校生などへの地元企業斡旋、アピールも地元を目指すための要素になると思う

【産業観光分野】

- ・観光については、観光地どうしを繋ぐことが必須だと感じます。バスも食事処も少なく、見に行くだけになってしまうので、その整備が必要では
- ・アウトレットやイオンモールを誘致すれば人はいっぱい来ると思う

【安全安心分野】

- ・災害が起きたときに、誰でも皆安全に避難できれば良いと思います。ハザードマップを広く周知させたり、月に1度防災の日を作ってはどうか

【その他】

- ・SNSなどをうまく使って市民の意見を広く取り入れれば、市民の「住みたいまち」に近づくと思う

委員O

【私が人口減少の原因と考えるもの】

- ・都会(東京・大阪等)の方が、たくさんの機関・施設がそろっていること
- ・テレビ番組など、福井県では、遅れて放送されたり、放送されないバラエティやドラマがあること

【この原因をふまえて、私が思ったこと】

- ・上に記した点は不満もあるが、現在の敦賀市が好き
- ・都会に比べて機関・施設がないですが、自然にあふれていますし、夜も静かで、星が見えるくらい暗い。都会へ旅行に行ったとき、敦賀市にないものが驚いたり感動したりと、新鮮な感情を味わえるのも私はすばらしいと思い、その感情をあたりまえのものにはしたくない
- ・旅行から敦賀市へ帰ってくると、とてつもない安心感があり、敦賀市のすばらしい魅力だと私は思う

- ・今の敦賀市を大幅にかえてほしくないと思っていますが、現状人口は減少しています。私の好きな、かつ若者が好みそうな敦賀市は思いつかないのですが、発展だけが魅力ではないと思う
- ・大幅な人口増加を目指すのではなく、人口を維持できるほどほどの発展が必要だと思います。

委員P

- ・現在の若者が高齢になるまで安心して暮らせる町づくりを目指すべきと思う。そのためには大人目線の意見に加え、若者目線の意見を基本構想に影響させる必要があると思う
- ・例を挙げると、「健康福祉分野」では、今の大人が感じる高齢になったときの不安、今の若者が高齢になったときの不安について、「産業観光分野」では、大人の求めるもの（基本構想案のようなもの）と、若者が求める（産業）観光について、など、両者の意見を混合させた構想案です。現在の構想案では若者目線のものが少ないと感じた
- ・「敦賀観光バスツアー」を行うのはどうか。敦賀の観光地は様々なところに分散している。全てをまわりきるとするのは電車で来た方などからしては少し大変かと思う。駅前の商店街にレンタサイクルがあるが買い物をした場合荷物の問題がおきてしまうと思う。そこで登場するのがバス。「ぐるっと周遊バス」が敦賀では走っていますが、訪れた地点について詳しい情報がきけなかったり穴場スポットを見逃したりと内容が濃いものにはならない場合が多い。このバスツアーはただ大人のガイドさんが案内するだけでなく、地域の学校に呼びかけ、事前学習のうえガイドに参加してもらおう。また、市外の学校にバスツアー参加を呼びかけ多くの若者に敦賀をアピールする。これによって地元のガイドをする側の生徒も、バスツアーに参加する市外の生徒も敦賀市についての学びを深くでき、敦賀により若者をとり入れられるのではないかと思う（学生参加は毎回ではなく機会を何度か設けるとのこと）
- ・北陸新幹線敦賀開業について、果たしてメリットだけかといったらもちろんそうではありません。敦賀に人をたくさんとりこめるチャンスではあるが、逆に敦賀から市外、県外にでていく人も増えてしまうため、その大小関係について考えるのも大事だと思います。逆に人口減少につながってしまっは大変だと思う

委員Q

- ・ずっと敦賀で住みたいと答えた人の理由で一番多かったのが、「知人や親類の近くで暮らしたい」というもので、敦賀から引っ越したい人の理由で一番多かったのも「知人、親類の近くで暮らしたい」なので、つまりは、敦賀に人を集めると、その親類や知人も後に敦賀に来る可能性がたかく、より敦賀の人口が増えると思う

【敦賀に来てもらうための工夫】

- ・北陸新幹線開業にあたって、敦賀駅からアルプラザまでのシャッターの閉まった店を市が買い取り、その買い取った所に新しく「大人だけでなく子供も楽しめる」店を募集して、商店街をそこに復活させれば、他県から敦賀を訪れる人も増えると思う。また、その新しく建てる店の中に、敦賀を代表する「何か」を扱う店があれば、近くに気比神宮もあるので敦賀駅を降りてすぐに敦賀を知ってもらうことが出来ると思う。また、この案は外国人にとっても良いことだと思う。なぜなら、日本三大鳥居の内の1つである大鳥居を訪れる外国人は少ないわけではなく、その外国人が駅から気比神宮に行くまでの道で、もし敦賀を代表する「何か」を扱う店に寄って、興味を持ってもらえたら、鳥居目的で来た外国人はその鳥居がある「敦賀」という都市に興味を持ってくれるかもしれないからである
- ・また、敦賀をよく知らない人が何らかの理由、例えば仕事等で来た時に、シャッター街ではなく色々な店があった方が便利でなおかつ好印象を与えることができる。これはさっき書いたように「外国人」や「観光者」にも言えることであると思う
- ・こういった「敦賀」を変えていくことで敦賀の人口は少しずつ自然と増えていくと思います。

委員R

- ・商店街を活性化するためにカフェなどにスタンプラリーをつくり、いろんな店を回った後には商店街で使うことのできる商品券を景品としてわたす
- ・駅につるがの街ガイドブックなど写真や地図、絵などをつけて見ているだけでも楽しくなるようなガイドブックを作成する
- ・若者が進学などをして県外に出てしまったときに、また敦賀に戻ってきたいと思えるように、駅周辺に建物を増やして買い物を楽しめる場所を増やす
- ・お年寄りの方や子どもでも楽しめる場所をつくるには、野坂山の散歩コースにもう少し遊具や分かりやすい地図を設置する（山の整備をこまめに行うべきだと思う）
- ・イルミネーション（ミライエ）の設置の数をもう少し増やして、にぎやかにする（CMなどで紹介する）
- ・月に1回は、敦賀市でイベントを開く
- ・街灯が少ないので、夜でも散歩やランニングなどをする人のためにもう少し、増やすようにする
- ・敦賀まつりの屋台の種類を増やす